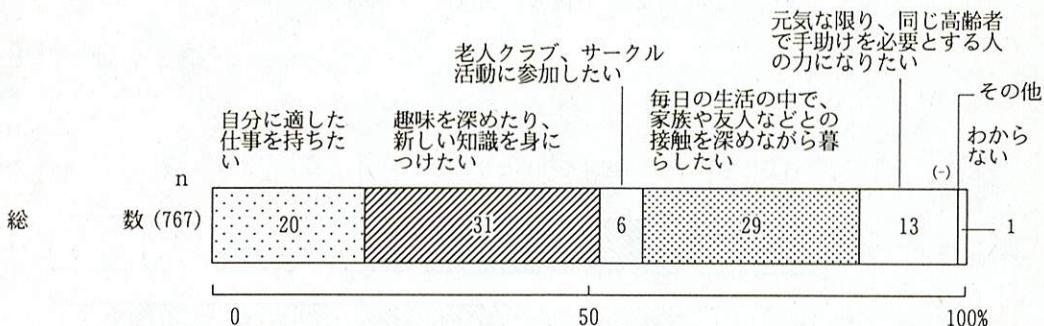


7. 高齢化社会

7-1 老後の生活

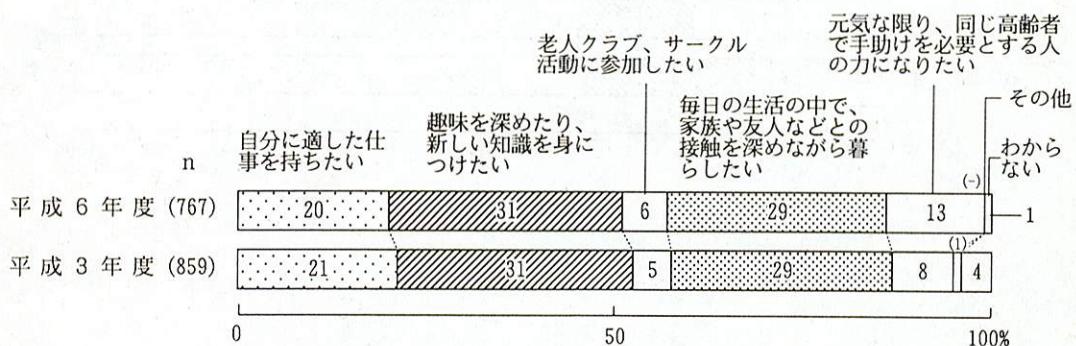
問12 [回答票] あなたは老後をどのように暮らしていきたいと思いますか。この中から1つだけあげてください。(○は1つ)



老後をどのように暮らしていきたいかたずねたところ、「趣味を深めたり、新しい知識を身につけたい」という人が31%となっている。次いで「毎日の生活の中で、家族や友人などとの接触を深めながら暮らしたい」という人が29%となっている。以下、「自分に適した仕事を持ちたい」が20%、「元気な限り、同じ高齢者で手助けを必要とする人の力になりたい」が13%、「老人クラブ、サークル活動に参加したい」が6%となっている。

平成3年度の調査と比較すると、大きな変動はみられないが、「元気な限り、同じ高齢者で手助けを必要とする人の力になりたい」と答えた人の割合が5ポイント増えている。

図7-1 老後の生活（時系列）



性・年齢別にみると、「趣味を深めたり、新しい知識を身につけたい」という人は、男性の20代と30代でそれぞれ52%と、また、「毎日の生活の中で、家族や友人などとの接触を深めながら暮らしたい」と

いう人は60歳以上の女性で43%と、他の年齢層に比べ高い割合となっている。

ライフステージ別にみると、独身期から家族成長前期までは、それぞれの層で「趣味を深めたり、新しい知識を身につけたい」という人の割合が最も高くなっているが、家族成長後期以降では、「毎日の生活中で、家族や友人などとの接触を深めながら暮らしたい」という人の割合が最も高くなっている。

図7-2 老後の生活（性・年齢別）

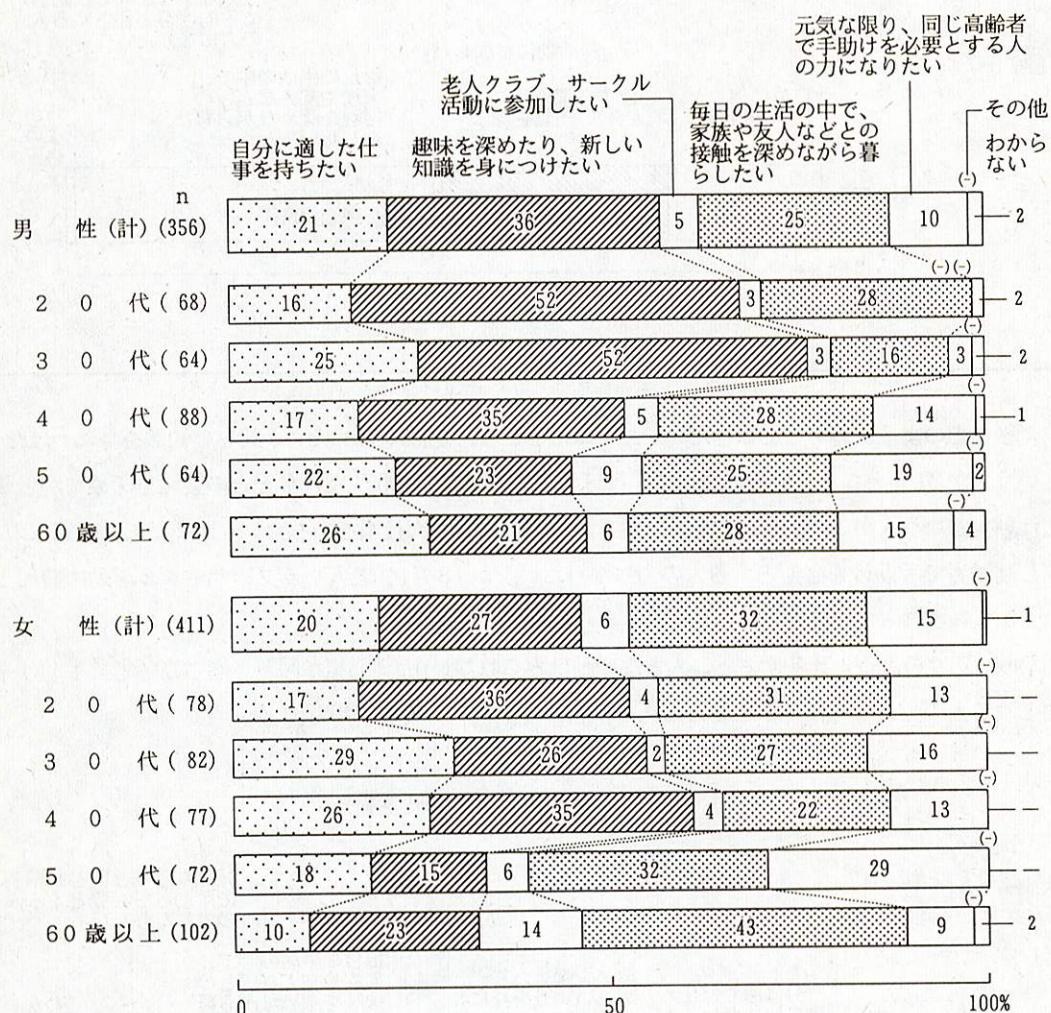
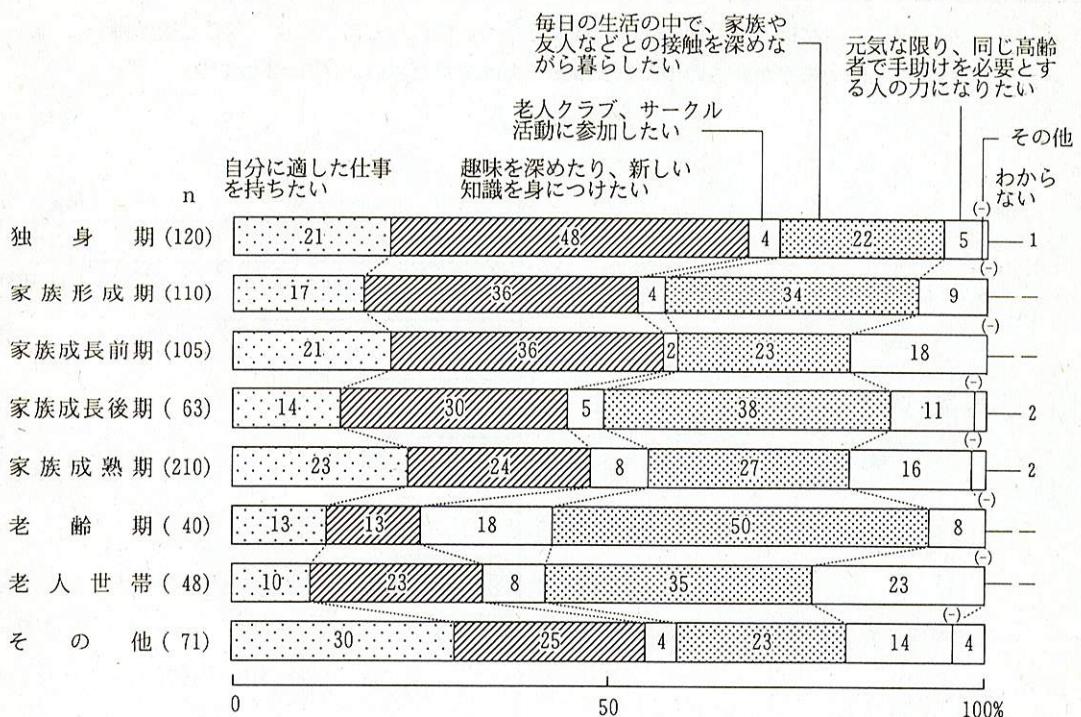
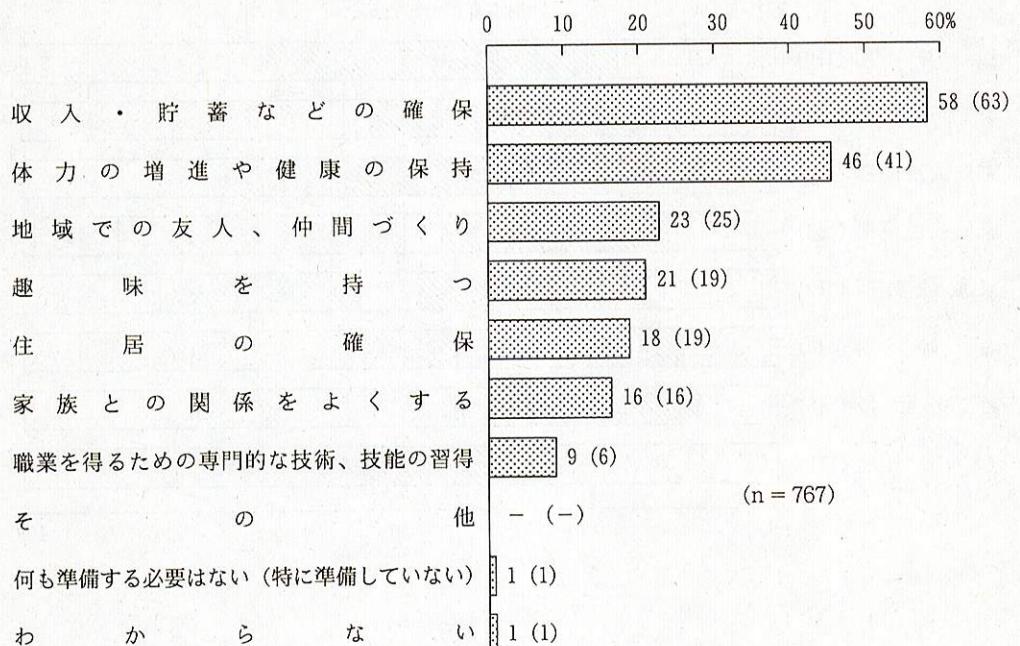


図7-3 老後の生活（ライフステージ別）



7-2 高齢期への準備

問13 [回答票] あなたは、高齢期の生活に備えるため、個人としてどのようなことを準備しておくべきだと思いますか。この中から2つまであげてください。(○は2つまで)



() 内の数字は平成3年度調査

高齢期の生活に備えるために準備しておくこととして、「収入・貯蓄などの確保」を58%の人があげている。次いで、「体力の増進や健康の保持」を46%の人があげている。以下、「地域での友人、仲間づくり」が23%、「趣味を持つ」が21%、「住居の確保」が18%、「家族との関係をよくする」が16%などとなっている。

平成3年度の調査と比較すると、「収入・貯蓄などの確保」と答えた人が5ポイント減少し、「体力の増進や健康の保持」と答えた人が5ポイント増加している。

性・年齢別にみると、「収入・貯蓄などの確保」と答えた人は、50代を除いては、女性の方が男性よりも割合が高くなっている。女性の20代(72%)、30代(68%)では7割前後となっている。また、「家族との関係をよくする」と答えた人の割合は、男女とも高い年齢層の方が高くなっている。60歳以上では、男性で24%、女性では33%と、他の年齢層に比べ高くなっている。

ライフステージ別にみると、「収入・貯蓄などの確保」と答えた人の割合は、独身期から家族成長前期に渡って6割を超えており、家族形成期では68%と最も高くなっている。また、「家族との関係をよくする」という人は老齢期では38%と、他の年齢層に比べ、非常に高くなっている。

図7-4 高齢期への準備 (性・年齢別)

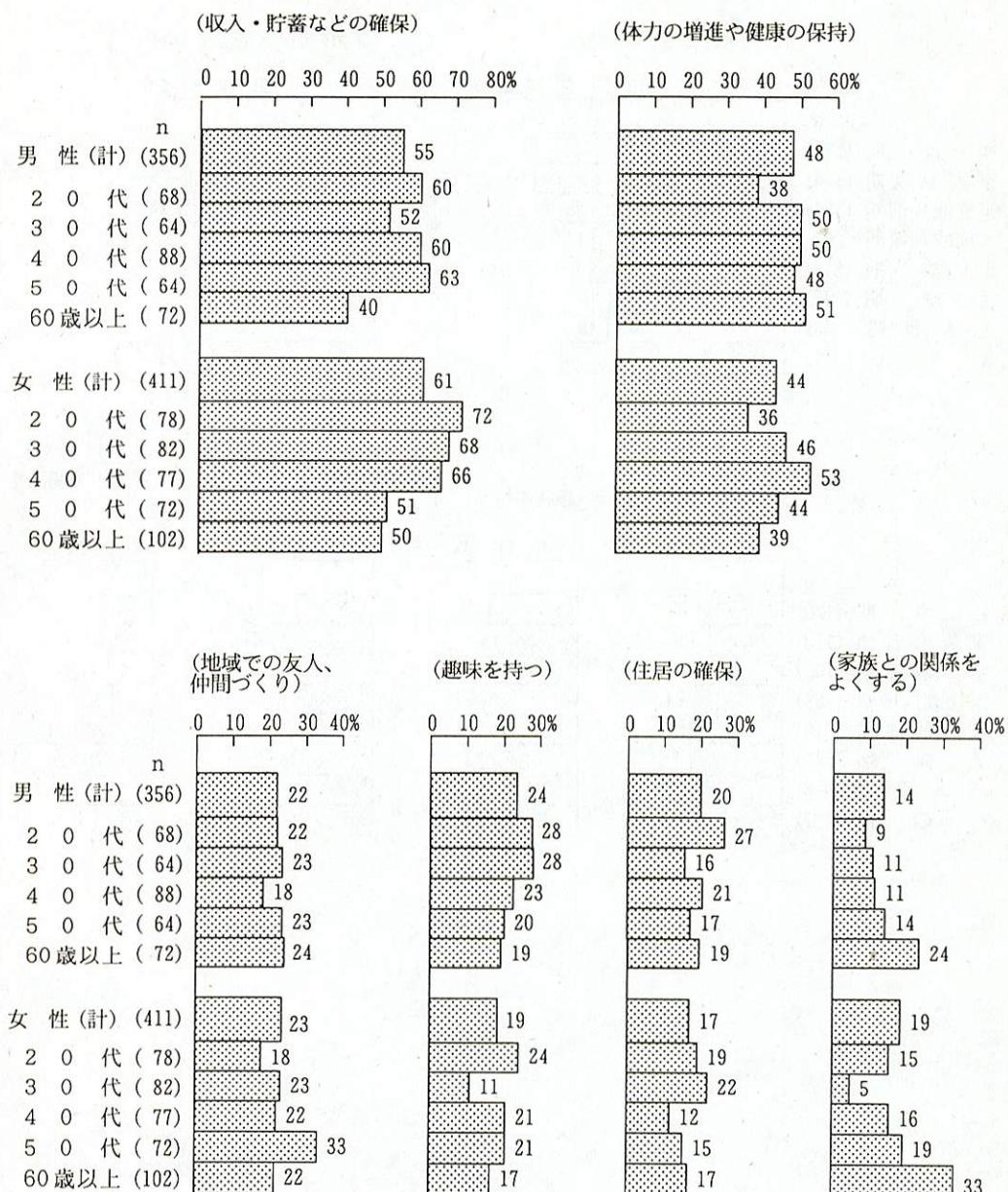
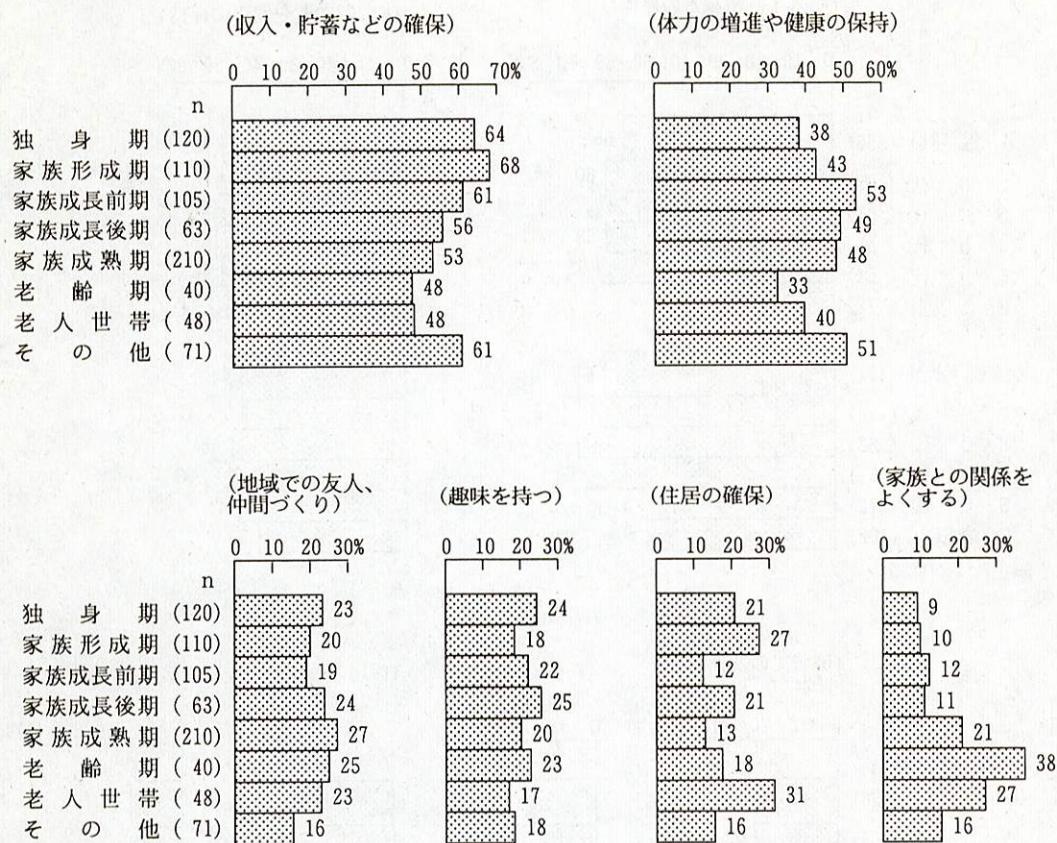
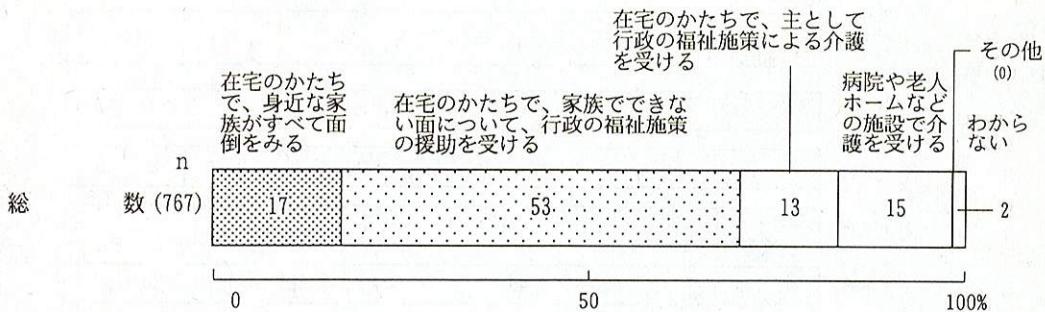


図7-5 高齢期への準備（ライフステージ別）



7-3 希望する介護形態

問14 [回答票] 介護が必要となったお年寄りの世話は、どのようななかたちが望ましいと思いますか。次の中から1つだけあげてください。(○は1つ)



介護が必要になったお年寄りの世話について、「在宅のかたちで、身近な家族がすべて面倒を見る」という人は17%、「在宅のかたちで、家族でできない面について、行政の福祉施策の援助を受ける」という人が53%、「在宅のかたちで、主として行政の福祉施策による介護を受ける」という人が13%、「病院や老人ホームなどの施設で介護を受ける」という人が15%となっている。

性・年齢別にみると、「家族でできない面について、行政の福祉施策の援助を受ける」という人は男性の30代(66%)、女性の30代(68%)と40代(61%)で6割を超えており。また、「身近な家族がすべて面倒を見る」という人の割合は、すべての年齢層で男性の方が女性より高くなっている。30代では、男性(19%)の方が女性(7%)より12ポイント高くなっている。「病院や老人ホームなどの施設で介護を受ける」という人は年齢層が高くなるほど割合も高くなる傾向がみられ、女性の60歳以上では29%となっている。

ライフステージ別にみると、独身期から家族成熟期までは、「家族でできない面について、行政の福祉施策の援助を受ける」という人の割合が最も高くなっているが、老齢期では、「身近な家族がすべて面倒を見る」という人が33%と最も高くなっている。一方で、老齢期では、「病院や老人ホームなどの施設で介護を受ける」という人も30%と、他の年齢層に比べ高くなっている。

図7-6 希望する介護形態（性・年齢別）

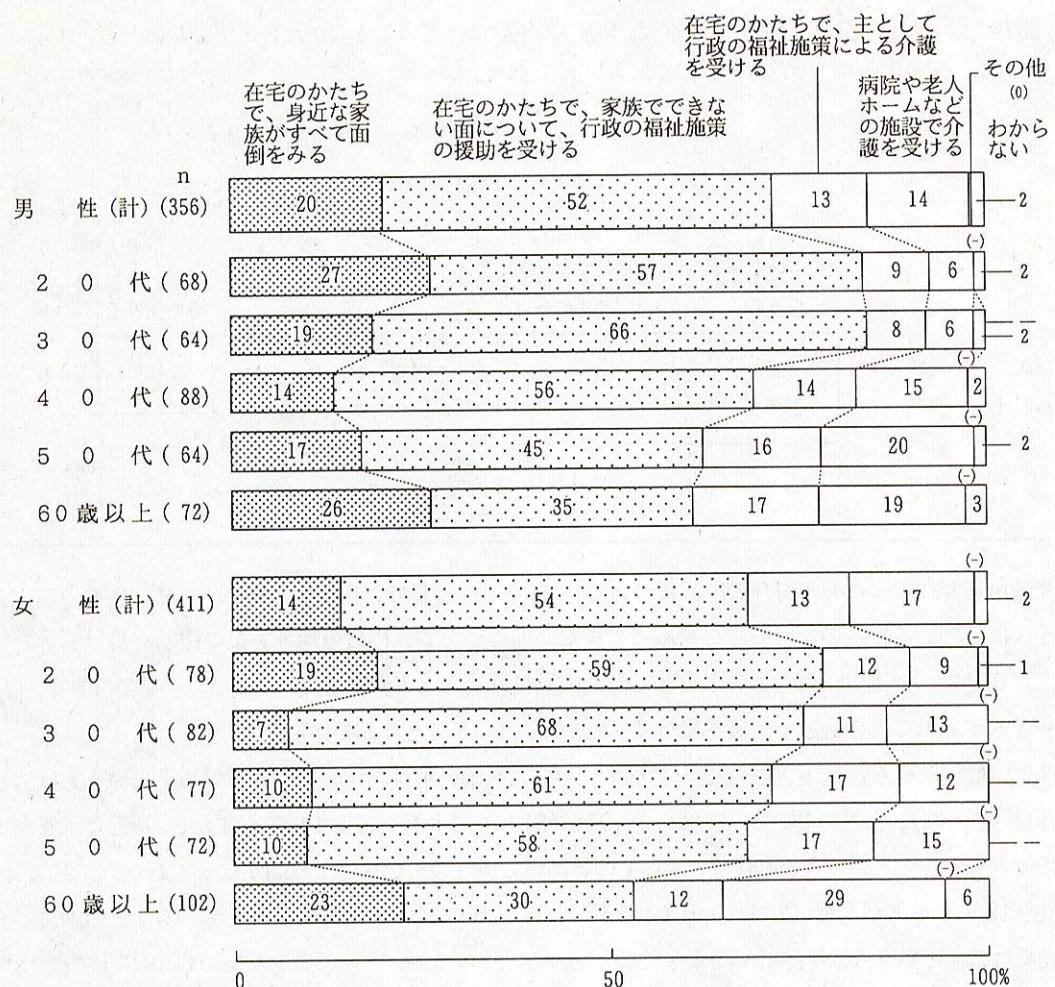
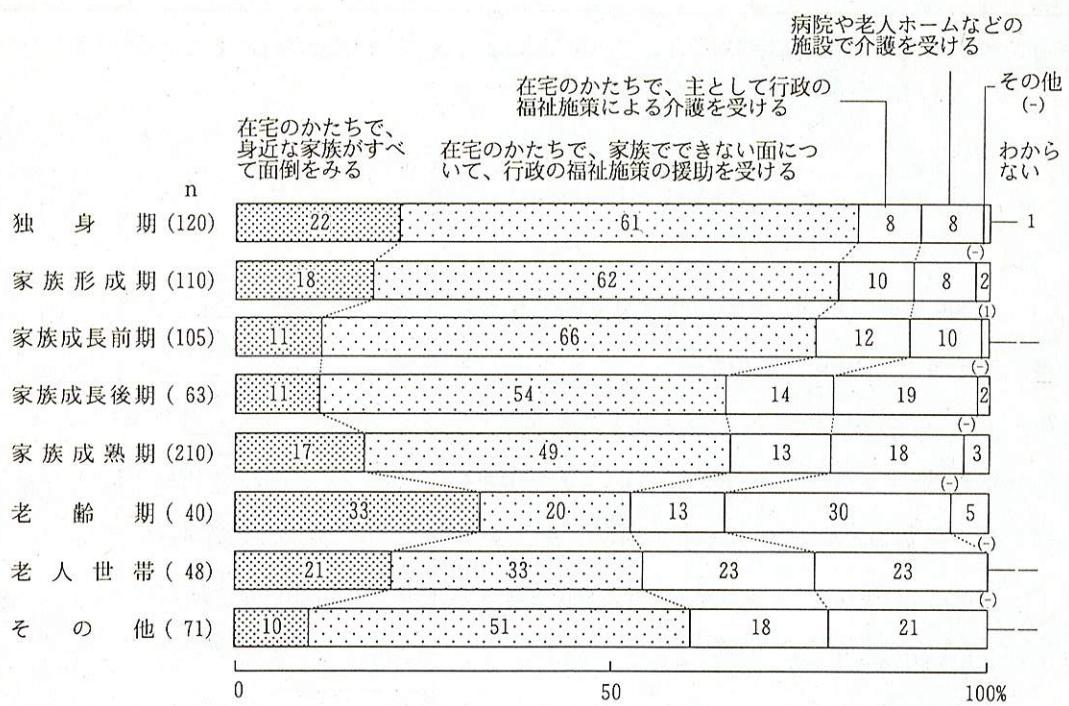
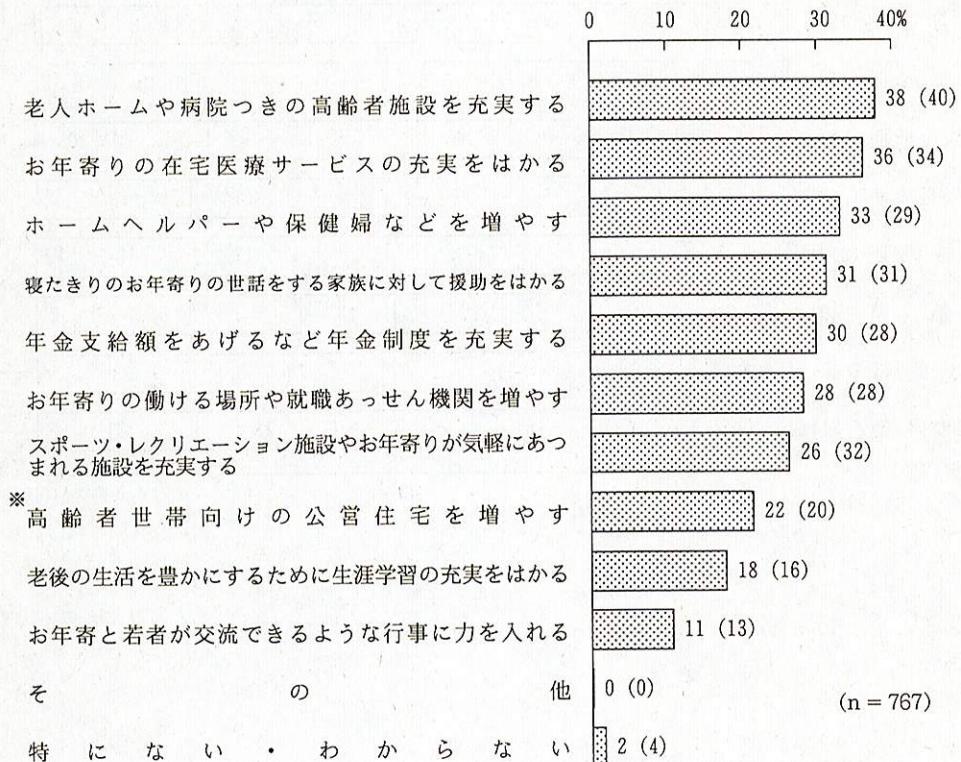


図7-7 希望する介護形態（ライフステージ別）



7-4 高齢者対策への要望

問15 [回答票] 今後、高齢者対策として、市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。この中から3つまであげてください。(○は3つまで)



() 内の数字は平成3年度調査。※は平成3年度は「老人世帯向けの公営住宅を増やす」

高齢者対策への要望の上位5項目としては、「老人ホームや病院つきの高齢者施設を充実する」(38%)、「お年寄りの在宅医療サービスの充実をはかる」(36%)、「ホームヘルパーや保健婦などを増やす」(33%)、「世話をする家族に援助をはかる」(31%)、「年金支給額をあげるなど年金制度を充実する」(30%)があげられている。

平成3年度の調査と比較して、「ホームヘルパーや保健婦などを増やす」と答えた人(33%)が4ポイント増え、順位も7位から3位に上がっている。

性・年齢別にみると、「老人ホームや病院つきの高齢者施設を充実する」と答えた人の割合は、男女とも60歳以上で最も高くなっています。60歳以上の女性では、54%となっている。「お年寄りの在宅医療サービスの充実をはかる」と答えた人は、30代の男性(44%)と女性(40%)、50代の女性(42%)で4割を超えており、「ホームヘルパーや保健婦などを増やす」は、どの年齢層も女性の方が男性より高くなっています。

っており、50代では男性の28%に対して女性は47%と、19ポイント高くなっている。「世話をする家族に援助をはかる」という人は20代の女性で44%と最も高くなっている。

ライフステージ別にみると、「老人ホームや病院つきの高齢者施設を充実する」と答えた人の割合は、老齢期で50%となっており、最も高くなっている。「在宅医療サービスの充実をはかる」と答えた人は、家族形成期(40%)と老人世帯(42%)で、「ホームヘルパーや保健婦などを増やす」という人は家族成長前期(40%)、老齢期(43%)で、それぞれ他の層に比べ高くなっている。

図7-8 高齢者対策への要望(性・年齢別)

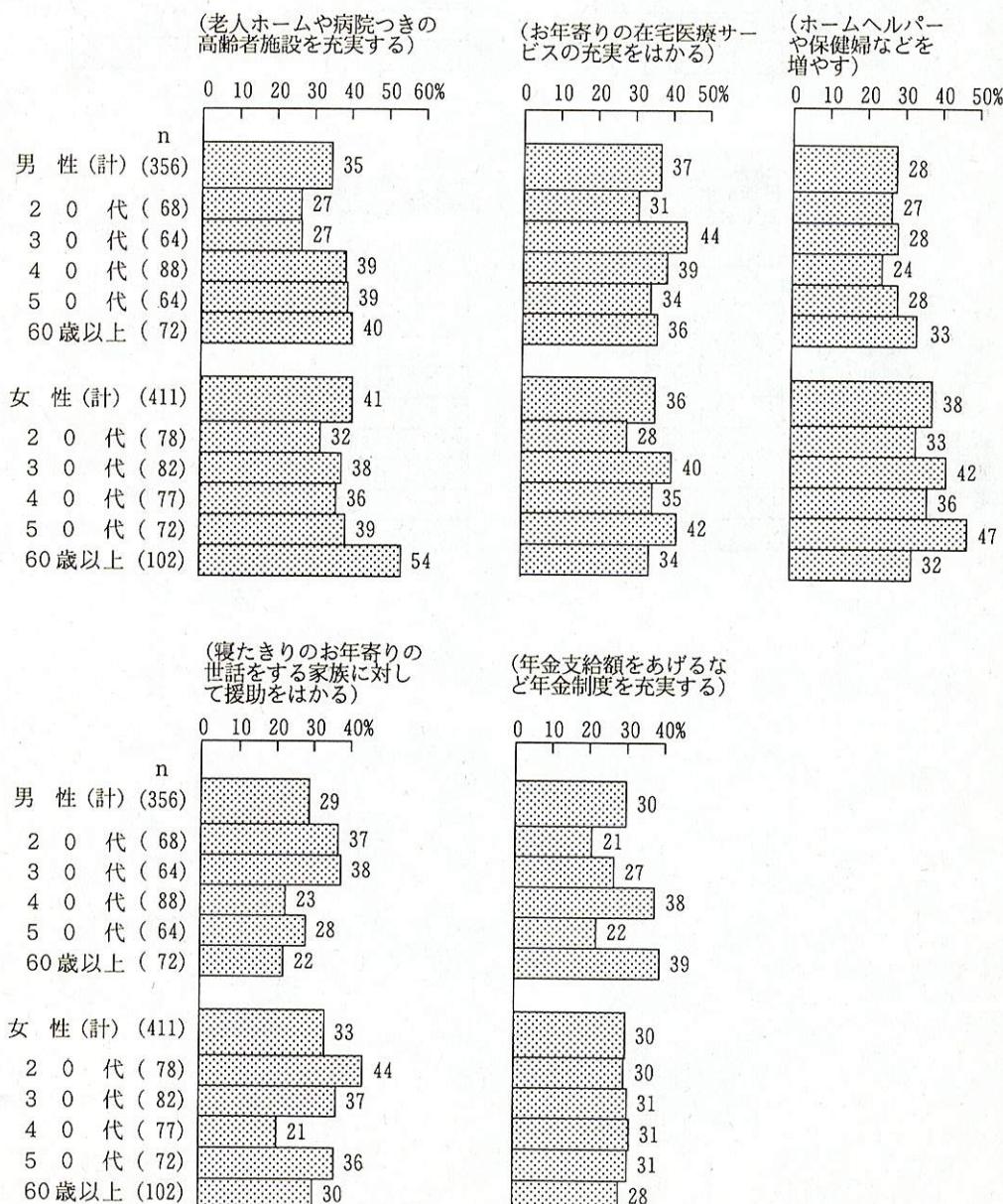


図7-9 高齢者対策への要望 (ライフステージ別)

